

香り高く、柔らかいゴボウをつくりたい

栽培のポイント

●柔らかくて甘みのあるゴボウをつくるには、リン酸とカリとカルシウムを上手に効かせる！
そのためMリンPKを混合する時は、カリを多めに配合するとよいでしょう。

●根菜類の肥大は、外側から詰まる！

ゴボウにスが入るのは、生育後半に同化養分(炭水化物)が十分につくられずに芯の方に送られないためです。対策には、収穫1ヵ月前にもMリンPKを効かせましょう。

●香りとうま味は、ゴボウの表皮に隠されています！

ゴボウの根っこはデリケート。実となる主根の伸びる先に未熟有機物や停滞水があると、二股になったり、腐ったりします。

吸収根であるひげ根は、栄養豊富でフカフカの土を求めます。

肥もちが良く、排水性・保水性の両立した土壌を準備しなければなりません。連作障害の発生するゴボウづくりは、時間を掛けた土壌のケアが必要で、堆肥・バクヤーゼ・Mイーシーで健康な土をつくりましょう。



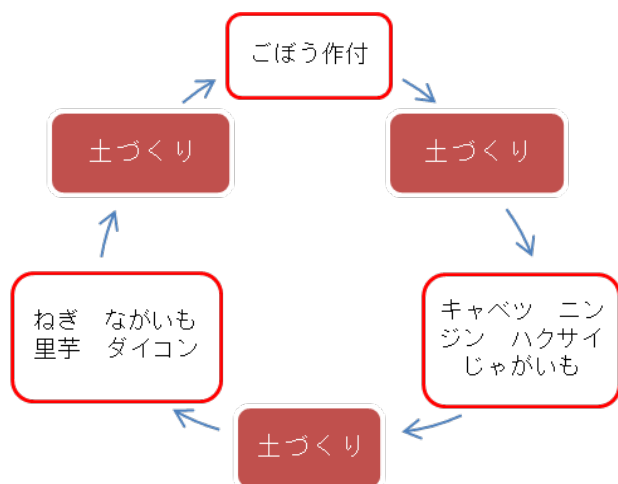
ゴボウの施肥提案（春まき／1a＝30坪）

肥料名	元肥	追肥① 本葉2～4枚頃	追肥② 本葉5～6枚頃	追肥③ 収穫30日前頃
MリンPK	4kg	4kg	4kg	4kg
バクヤーゼK	15kg	15kg		
NK化成	10kg	7kg		

初期生育が遅いので、雑草対策はしっかりと

MリンPKが効いていると地上部はやや小ぶり

<ゴボウの連作障害対策>
—輪作体系と十分な土づくり—



収穫後の土づくり（1a）

各作の収穫後に 残渣とともに
堆肥 500kg～1t
バクヤーゼK 3～5袋
Mイーシー 2kg
米ぬか 約3～5kg
以上を全面散布して、耕起
その後十分にかん水
(バイオ根助の混用おすすめ)